

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	豊岡市		代表者名	市長 門間 雄司	
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	市長公室DX/行財政改革推進課	連絡先電話番号	0796-21-9146
担当者役職	課長	担当者氏名	橋本 直紀	連絡先E-mail	
住所	668-8886 兵庫県豊岡市中央町2番4号				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	具体的課題への支援	事業名	行政事務のDX化		
概要	市域のほとんどが中山間地域である本市においても人口減少、とりわけ生産労働人口の激減が予測され、市役所機能をはじめ、金融、物流などの公共サービスを地域でどのように残せるのか、対応が急務となっている。この課題に対応するためのワークショップを開催するための支援をお願いしたい。				
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成）				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	263K	令和8年2月12日	事前打合せ&支援・助言	オンライン
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年11月21日	支援・助言(実地)	14時00分	16時00分	
				活動時間（分）	120
2-2. 派遣場所	会場名	豊岡市役所		最寄駅	JR豊岡駅
	所在地	兵庫県豊岡市中央町2番4号		最寄駅からの交通手段	徒歩10分

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	澤 尚幸				
評価	大変良い				
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	これまでの豊富なご経験から、事例を示しつつ丁寧かつ分かりやすくご指導いただいた。特に、極力難しい用語、表現を避け、丁寧にご指導いただいた。				
アドバイザーへの要望事項	第3回についてはワークショップを予定している、同様に支援いただきたい。				

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数		4人	
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	2	0	2	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	現在本市では、“生産労働人口の減少”が招く公共サービス提供体制に対する危機感を抱いている。市役所業務をはじめ、物流、金融などの公共サービスを地域で持続可能な形で残すための議論を始めているが、ややもすると“事務事業の整理と受委託”の形に収束してしまいがちな状況である。例えば、地域の貴重な公共インフラである郵便局やコンビニ、コミュニティセンターに着目し、人や施設、既存サービスなどのリソースを持ち寄り、ICT活用を前提としつつ、住民の利便性を損なうことなく効率的にサービスを提供できる体制をどのように構築するのか、こうした議論を進めているところである。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	現在は、物流業者、コンビニ業者、その他公共サービス提供者との議論を始めようとしているが、議論を進める中で幅広くインフラを束ねて、人や施設、既存サービスなどのリソースをICT活用を前提に効率化の手法を検討し、市民にとって安心して暮らせる公共サービスの提供体制を構築し一旦令和9（2027）年4月スタートさせることが本プロジェクトのゴールと位置づけ、安定した公共サービスの提供が市民の「いつまでも安心して暮らせる」状態を創出し、市民の幸福につなげることを目指している。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	2/17のワークショップに向けて、行政と事業者で事前勉強会を実施しました。現場のリアルな課題をもとに、「何に困っているか」「どこまで自分たちで動けるか」「DXをどう活かすか」を双方向に議論し「具体的に何をすべきか」見出すためのワークショップの設計について助言をいただき、本番をスムーズに進めるための準備と、各メンバーの役割を確認した。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	実際の事例を交えて話し合うことで、現場に即した知識を得ることができること、具体的には「本当の課題はどこにあるのか」「行政や事業者、地域を支える組織がどう足並みを揃えて業務を見直すべきか」を整理すること、「人とデジタルを上手に使い分けながらの持続可能な地域づくり」こそが大切であることの気づきを得た。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑦その他
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	現場のリアルな課題をもとに、「何に困っているか」「どこまで自分たちで動けるか」「DXをどう活かすか」を双方向に議論し「具体的に何をすべきか」見出すためのワークショップの設計について学ぶことができた。	
アンケートの内容と分析結果	特になし。	
	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
	参加者を対象に「次回に向けての役割を理解したか」を問い、それぞれ「明確になった」ことを確認した。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	③現段階では課題・問題が残っているため未定
	次回(第3回)で行うワークショップで課題に対する解決策をより明確にする。	
4-4. 事業の最終的な目指す姿	市民にとって安心して暮らせる公共サービスの提供体制を構築し、一旦令和9(2027)年4月スタートさせることが本プロジェクトのゴールと考えている。安定した公共サービスの提供が市民の「いつまでも安心して暮らせる」状態を創出し、市民の幸福につなげていく。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可 掲載可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。

